

插
荃
衣
之
香

79
616
1



門 移 9
卷 616
卷 1-12

遠州流 四季雅筵

插蒼衣之香

東都 貞松齋一馬撰



四季雅筵

插花衣之香

東都柳隄

貞松齋一馬撰

切

為 主 為 賓 送 之 表

按 考

子 月 子 子 子 一 每

河 東 伍 為 只 雜 象 歌



遠州 挿花 衣香 序

余居 白山 日宅 後開 小園 管塢

結 欄 藝 四時 花 而 培 本 援 枝 迎

蝶 送 蜂 終日 風 詠 于 此 中 不 少

有 意 於 世 間 之 事 况 敢 求 聞 達

於 人 乎 乃 每 至 花 時 一 節 雙 鞋

尋芳於東西探香南北栖之乎
如不及焉余嘗有詩云六春三
事閑求句三尺有節唯趁花紀
此二事之實也當時自期如斯
送生涯則萬戶侯之富不必易
何圖虛名為煩具惹人間推引

不^ル弃而徙家於都之通衢
寸地當寸金不翅不能得一小
隙地而成曩時花塢依人求父
問學旦夜應接不得偷閑而盥
桓乎郊藝若舊時豈弟之風味
然不忍坐負花神齋頭安瓶排

窠得花，輒插。日景月夕，燈下之
佳。固無論玉影兒，罔雨一皆
宜。早晚時，以一杯之水，澆花洗
葉，得心神常清爽。始覺無抱甕
而灌畦之勞矣。比夫藝花者，雨
畏敗，有風畏落，之憂則大者。煩

惱而反似，殊勝矣。真似齋一馬子
好瓶華，穴畫遠州流，插花方為
一家師。圖其社中諸子，插得尤
美觀。而得方法者，當書家法帖
畫流粉本，在君子行事。瓶花者
取方于斯，則譬如子華端章甫。

立于會同之廷，太真羽衣舞霓，霓裳笑至，余好瓶花，豈不似衡裸而奏參，搨西施，素足浣紗於苧蘿溪，宇然不可謂非同臭味也。故不拒一馬子之求序，夫圖題遠州插花衣香者云。

寬政己未小春望後一日

淳經樓主人撰



牛山人書



本のまこらふ身は料のあく
 なる来るまご一ま子うはらうは
 名がねの魚一は時を事一
 ありしてさぬさふま一瓶に
 うつて結る。事わし梅さの
 うらんとくく梅山吹藤よ移る
 牡丹は流彩をさうと百は知れせく
 一き運まごこのまゆく露

是をたてとくね一のうねる
 みる教のさちさちも月
 ひろこのまごさる魚一ま若の白
 たえ一とけ紅糸はうとく
 流る中へまきくは菊の教は
 けく一はうさぬねはまをさる
 葉一みるまは把の急まはま
 つき一さる菊はまをさる又又

きねもあめしに帰花のあしひ
くはせきしきい情かきぬれ
たりのひらりいむりかぐり
さゆ淑事さけのたに福善の
まじつ月情きりきばぬれ
純よ写て秋城たのし人き
のいんがしつ一秋き
ぬれきりきとさふく
半ばさげぬれ



自叙

挿花きりつ物をとらきりき
とまふむかふと位さ任
よしむり自然ハ手練
事なりさゆきと共ら
きり枝のまじりきり
きり花をまじりきり
花作りはりりりりりりり

持家つらみとてふも 當流のほろとてふあり
 此百有餘種は 四季會席のたれし人集り
 挿る花をば 数種の中ふすれは 花の
 二之種は 一は 一は 一は 一は 一は
 ようきとてふも 一は 一は 一は 一は 一は
 花とてふも 一は 一は 一は 一は 一は
 挿る花をば 数種の中ふすれは 花の
 二之種は 一は 一は 一は 一は 一は
 ようきとてふも 一は 一は 一は 一は 一は
 花とてふも 一は 一は 一は 一は 一は

又せらるる花とてふも 一は 一は 一は 一は 一は
 おきく人らとてふも 一は 一は 一は 一は 一は
 花とてふも 一は 一は 一は 一は 一は
 挿る花をば 数種の中ふすれは 花の
 二之種は 一は 一は 一は 一は 一は
 ようきとてふも 一は 一は 一は 一は 一は
 花とてふも 一は 一は 一は 一は 一は

貞松齋一馬煥



昭琴窓
















漢新馬寬寫畫

馬

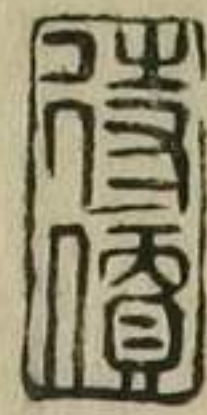
馬

松竹梅

先師考松齋一貞嘗買人
婚姻時挿松竹梅今為
即恩養有圖此一植足于微意也

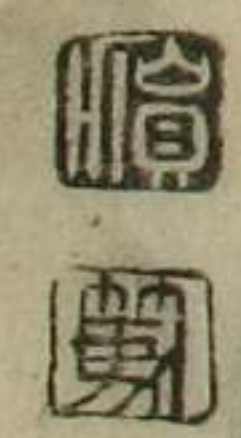


奇松齋
高森一貞

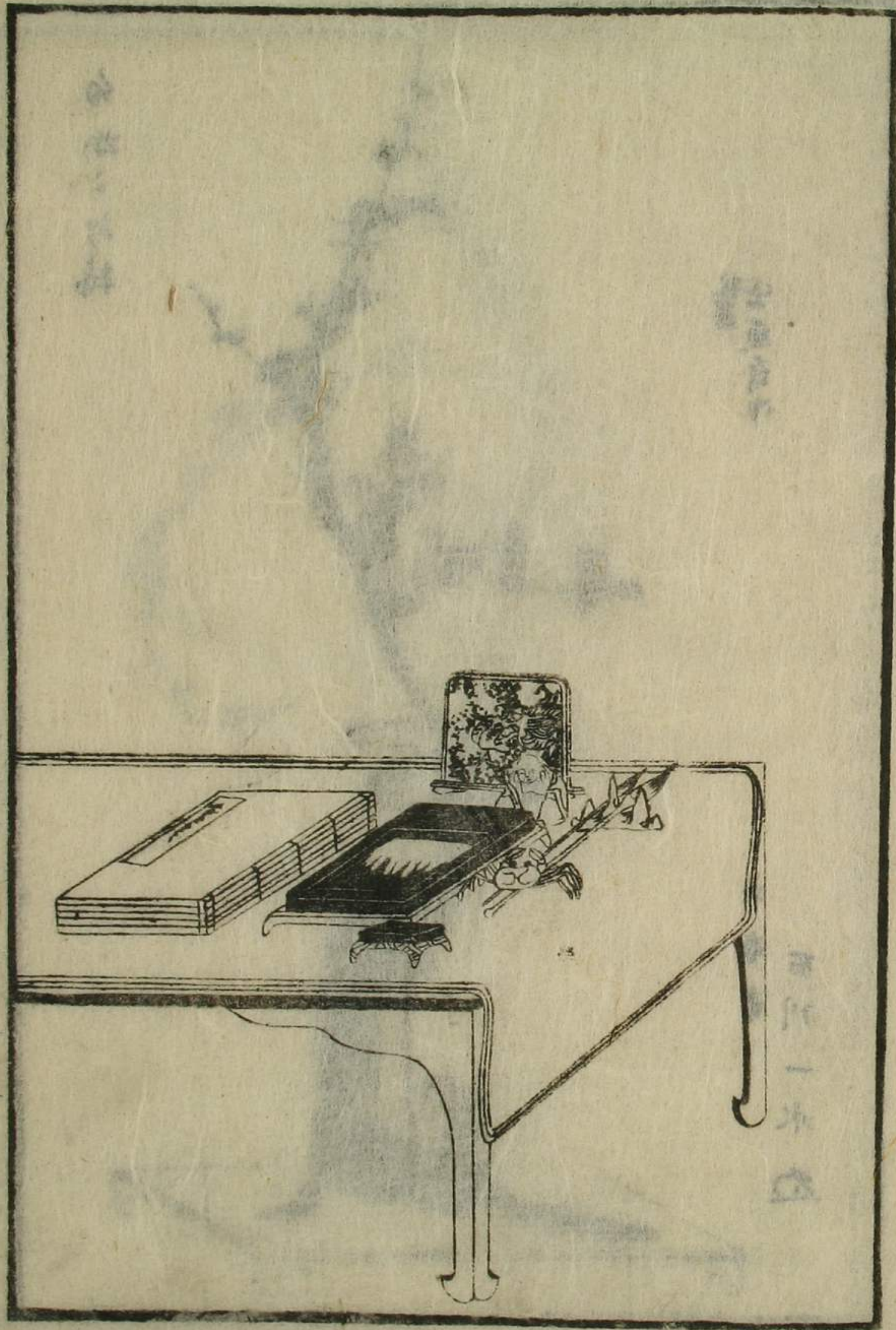


高

七十一六 高森一貞書



花鳥書目卷之六



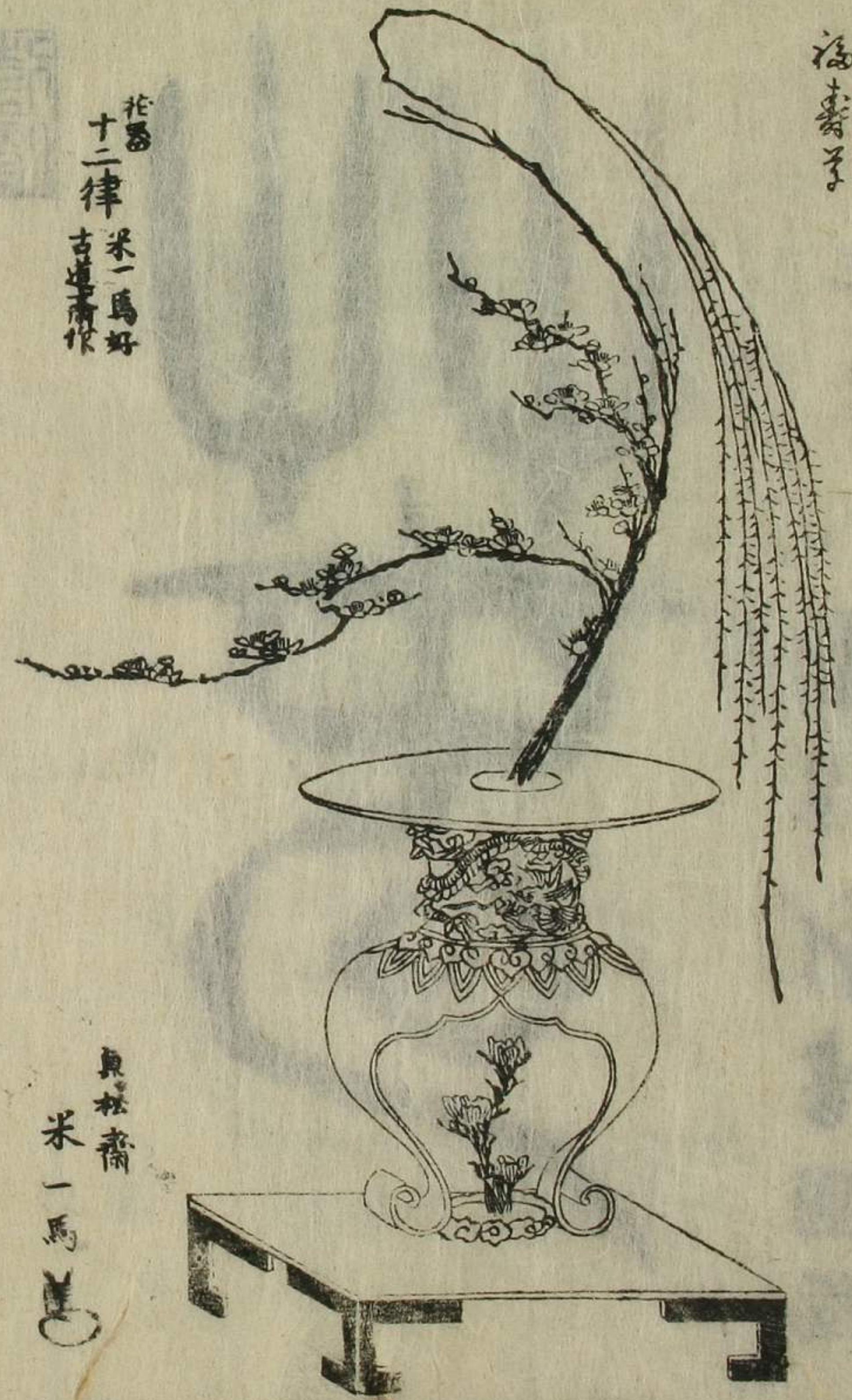
書一木

卷之六

花鳥書目卷之六

卷之六

柳
福壽草



花
十二律
米一馬好
古道清

貞松齋
米一馬

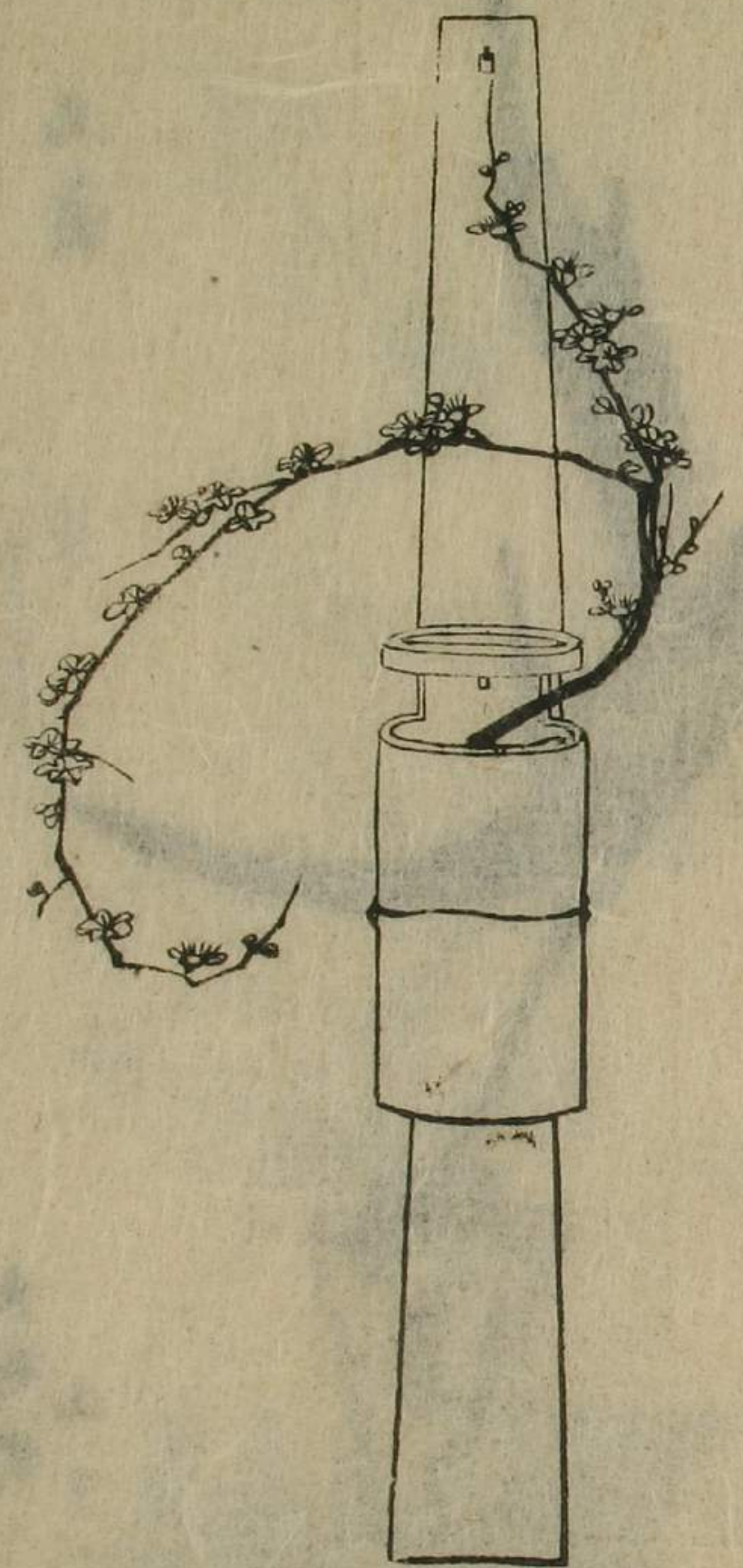
白梅の枝



花
土道斎作

貞壽齋
石川一水画

白梅



貞壽齋
小山一榮
画

馬蘭



貞柳齋
山下一草五

あしき椿



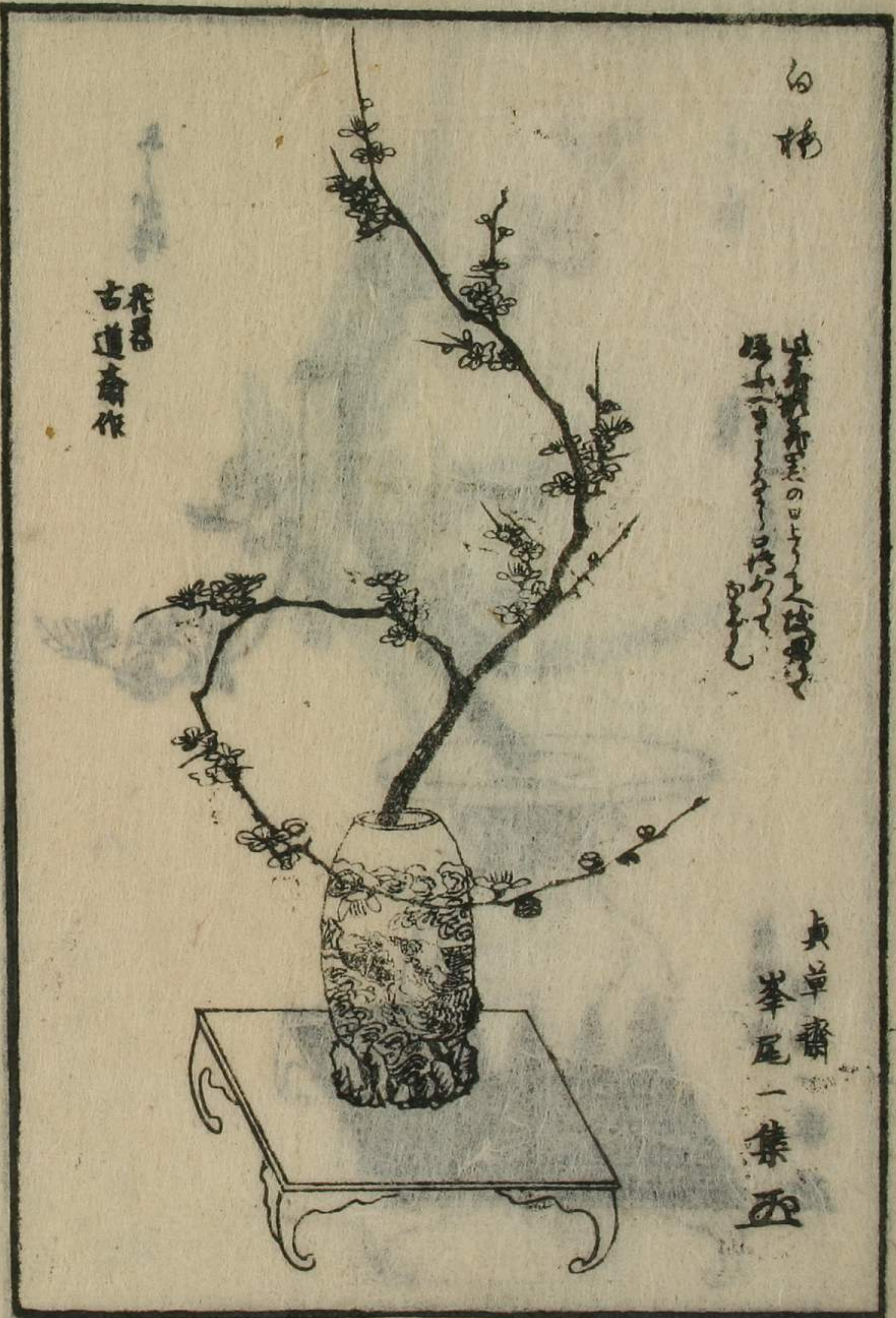
花
古道も作

貞陽名
中田一春五



柳子
馬子

貞真齋
遠藤一友



白梅

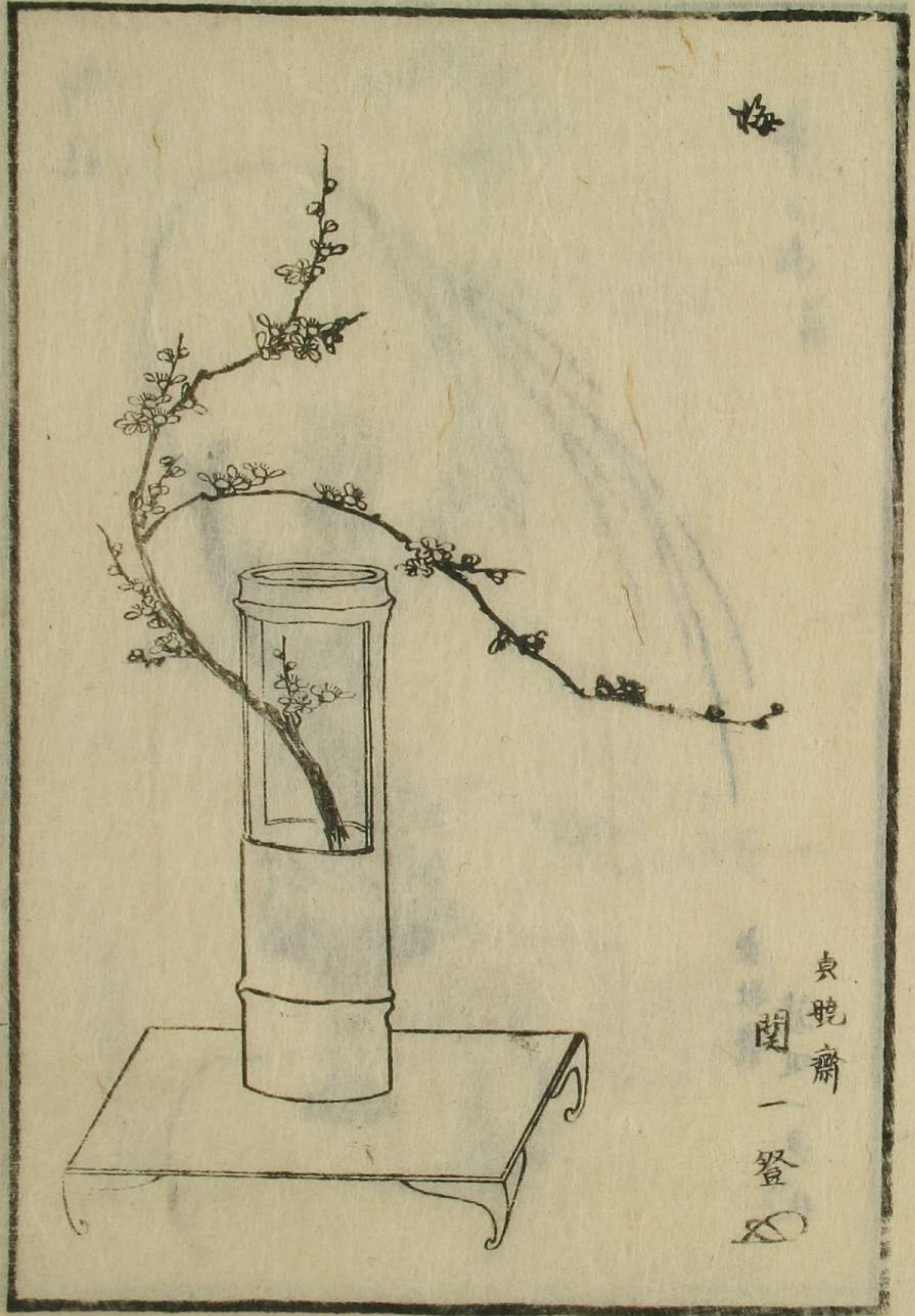
白梅の香は冬の日よりの人は
ほかにいふべきものなし

花器
古道齋作

貞真齋
峯尾一集

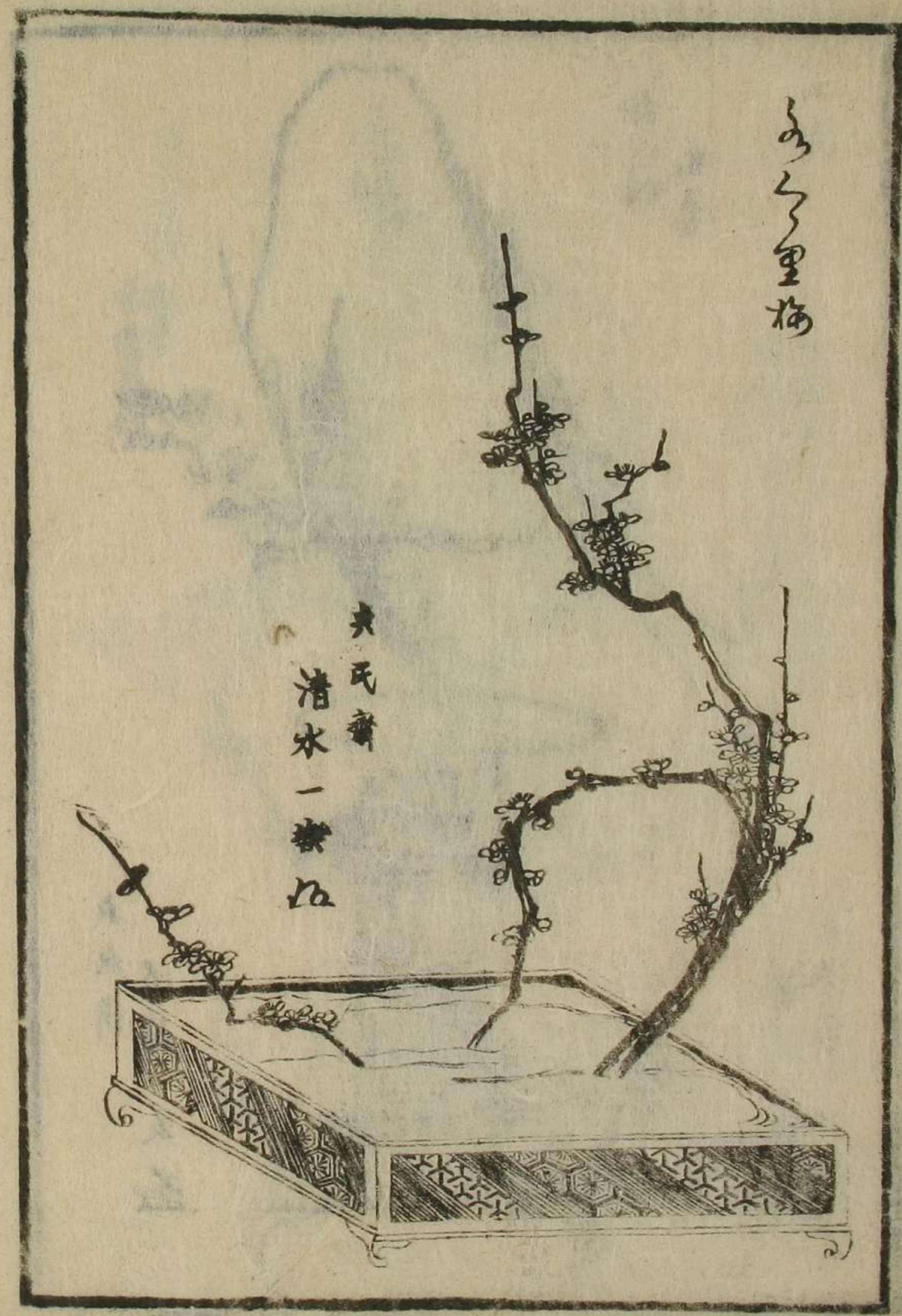
花の書 卷之四

花の書 卷之四



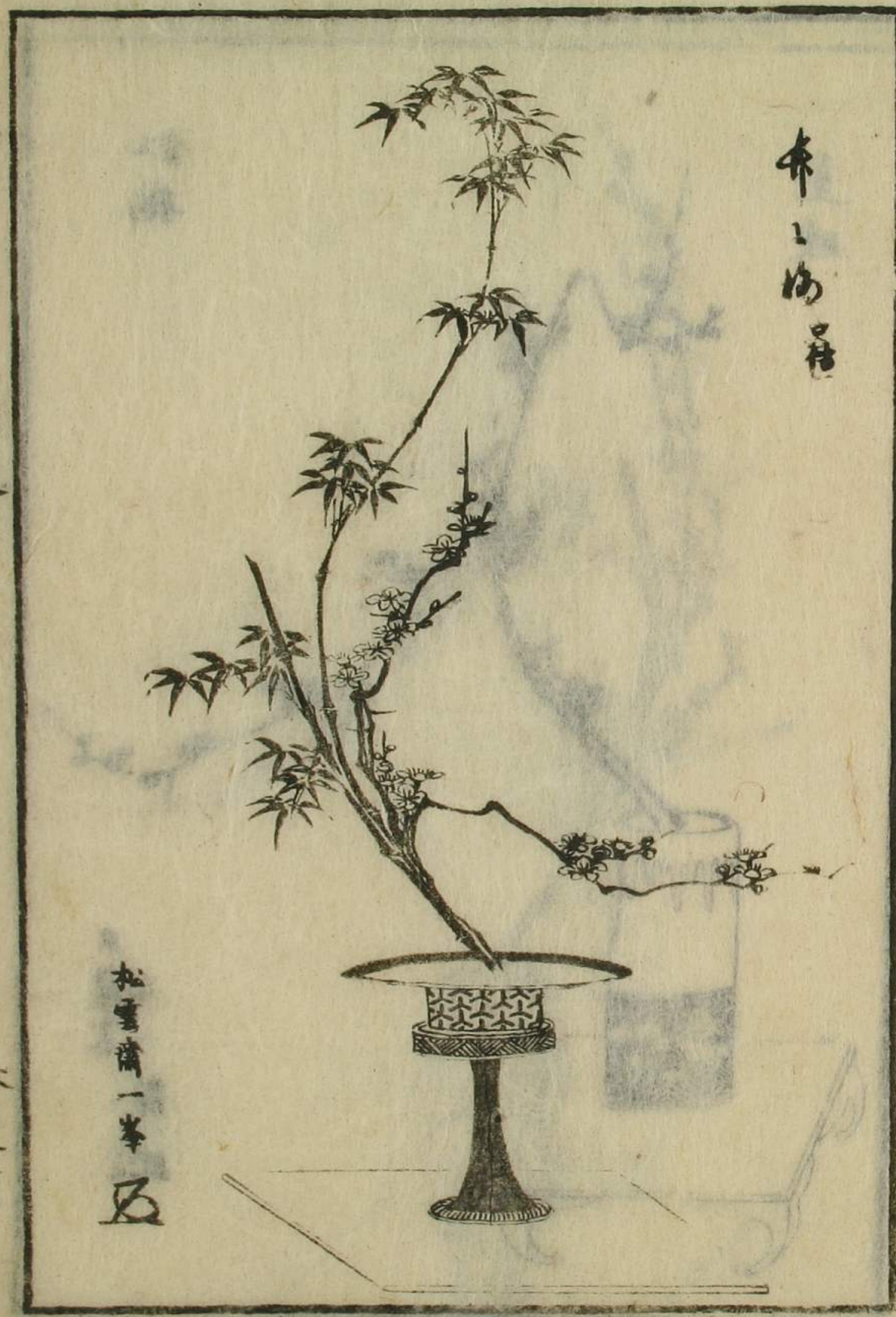
梅

貞晚齋
閑一登



みくら里梅

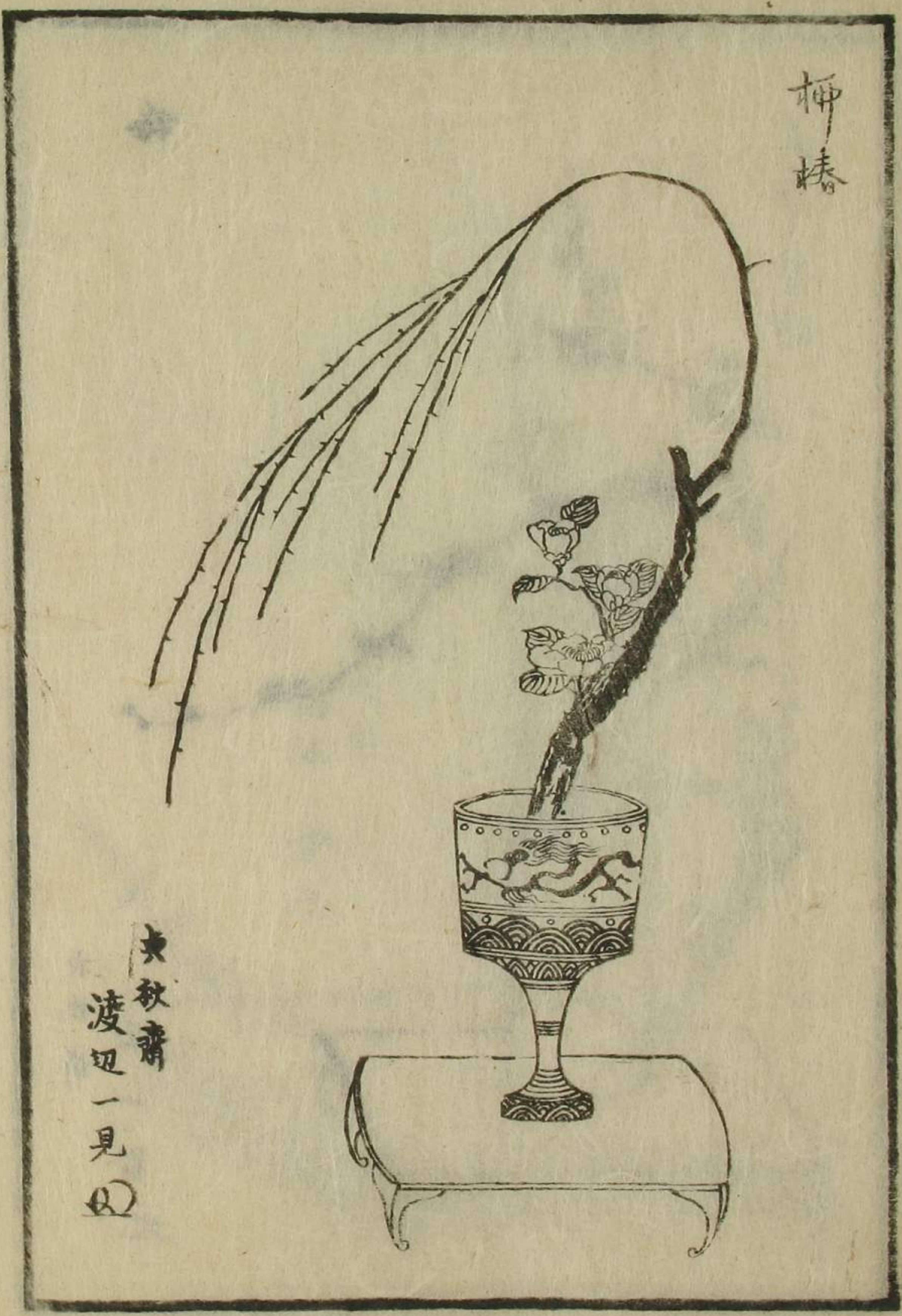
大氏齋
清水一漱石



春
上
河
日
居

松
雪
清
一
筆
及

春
上
河
日
居

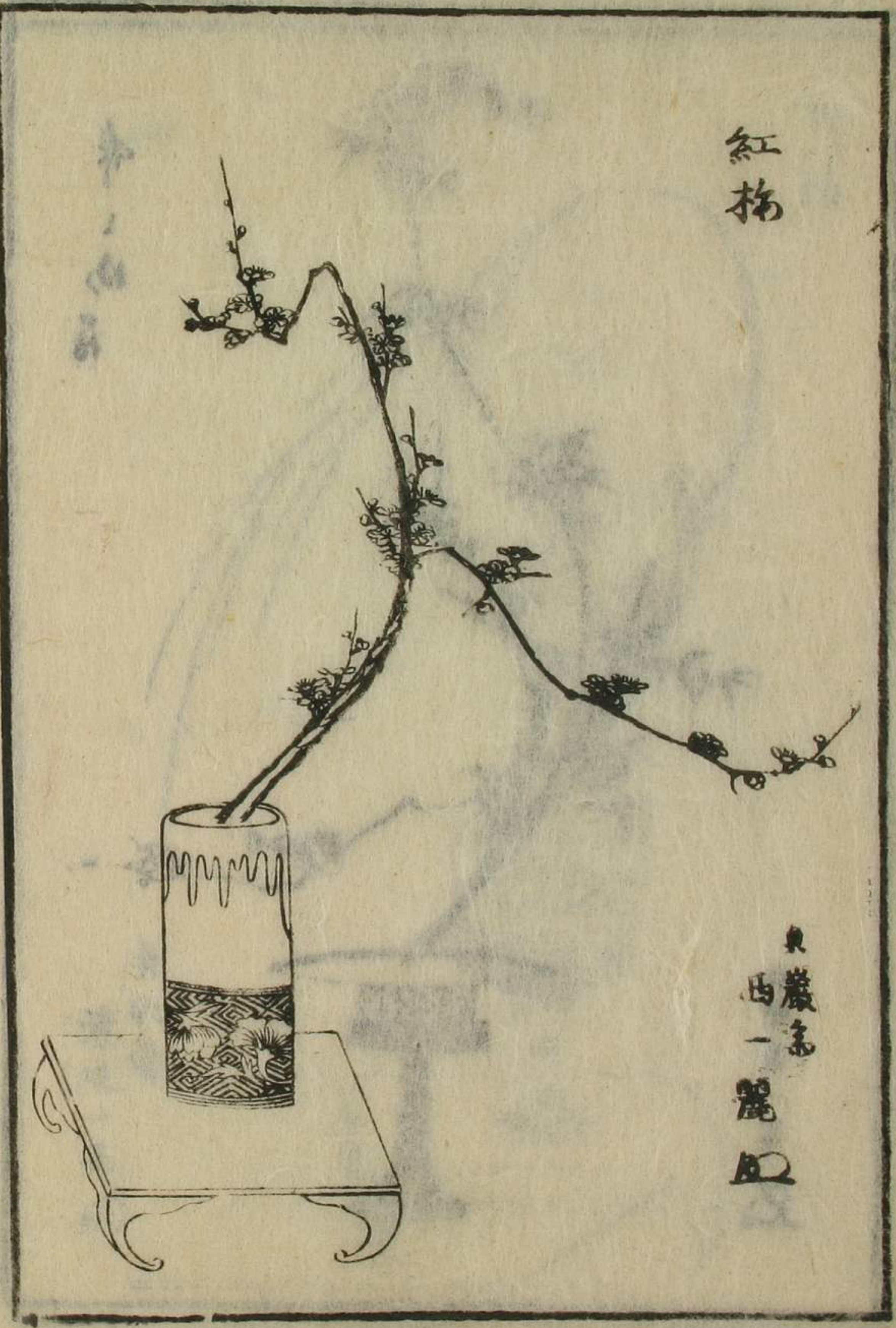


柳
橋

大
秋
清
渡
田
一
見
也

柳
橋

紅梅



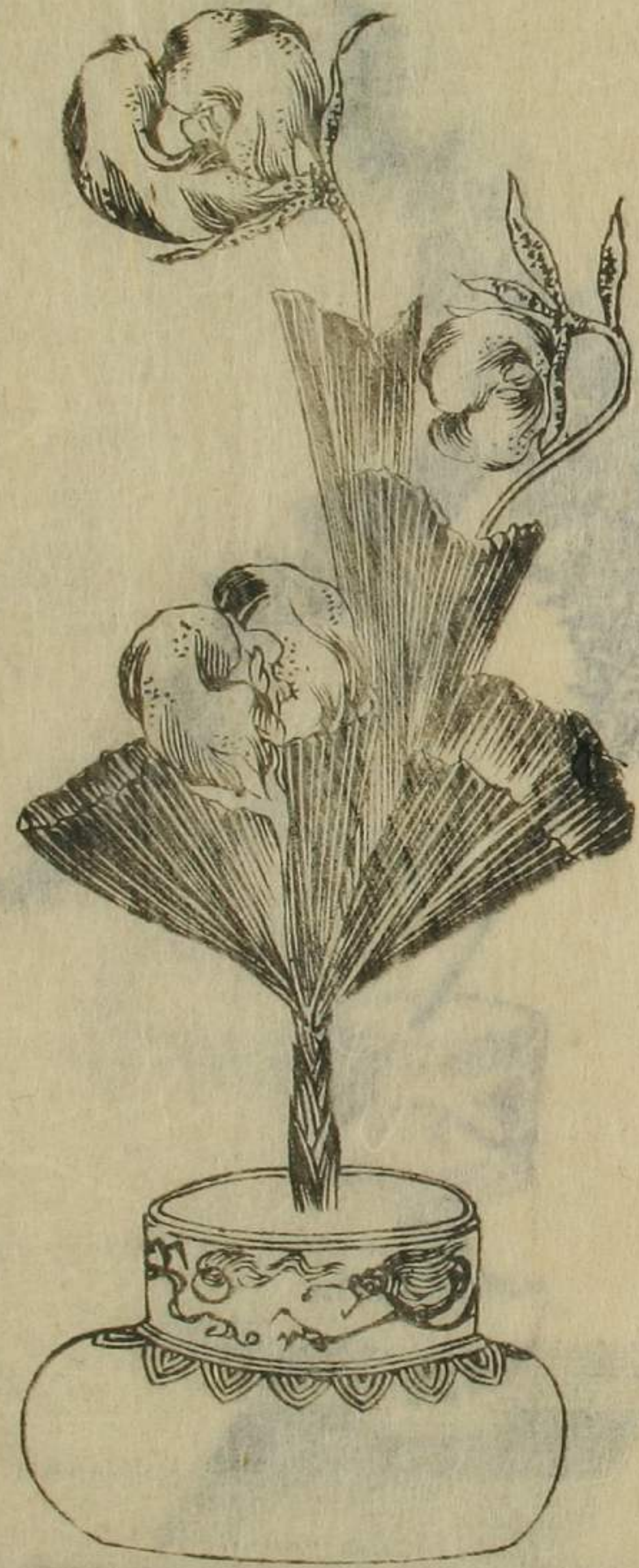
貞藏
由一
麗
風

蓮



石
香
梅
風

中山一仲



中山一仲



中山一仲

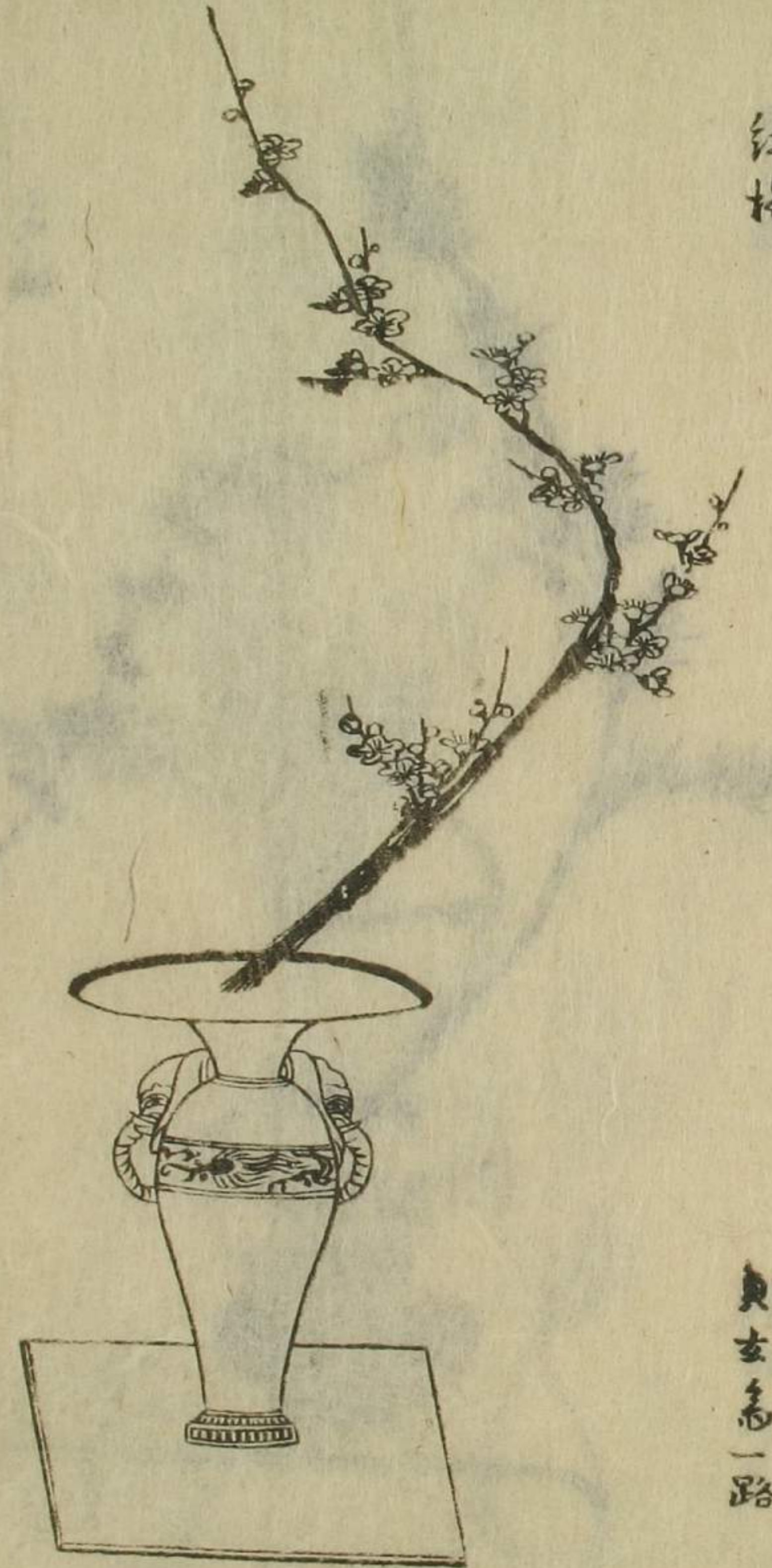
中山一仲

紅梅



富岡
女一屏

紅梅



貞玄
高一路

花器
古道高作

植
蓮
仙



活
蘭
一
尊

花
心
保



花
心
保



白玉椿

所馬集



紅木蓮
ちやが

布施一虎

山 蒼 長 見 春



庚 辰 虫



花

石川一九色

花の香巻

春菊



霍松奇
小林一川
石

ひんまり

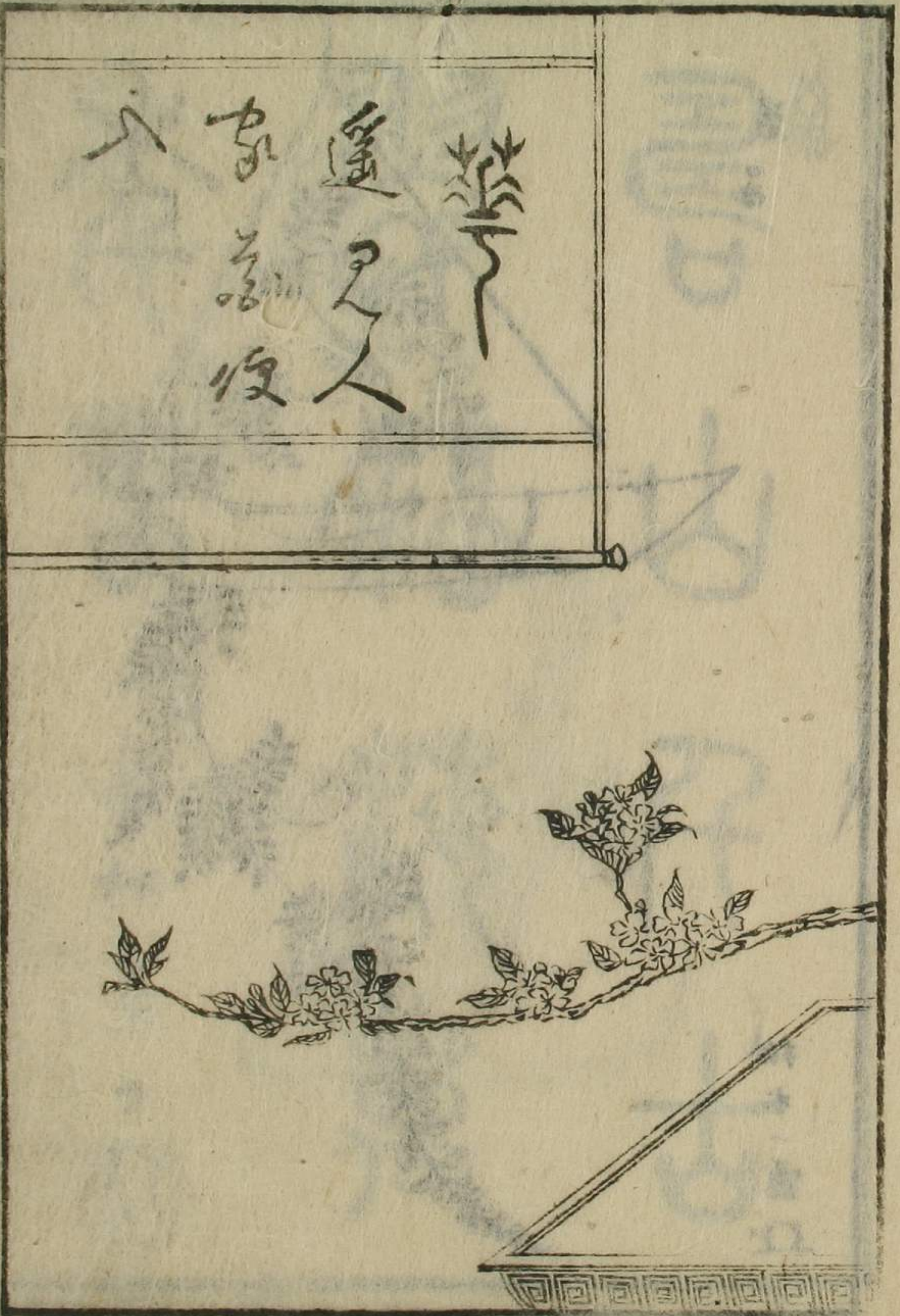


下野
皎雲齋
高嶋
東之

山松



貞松高一馬五



入
 家
 後
 逢
 人
 笑
 迎
 人

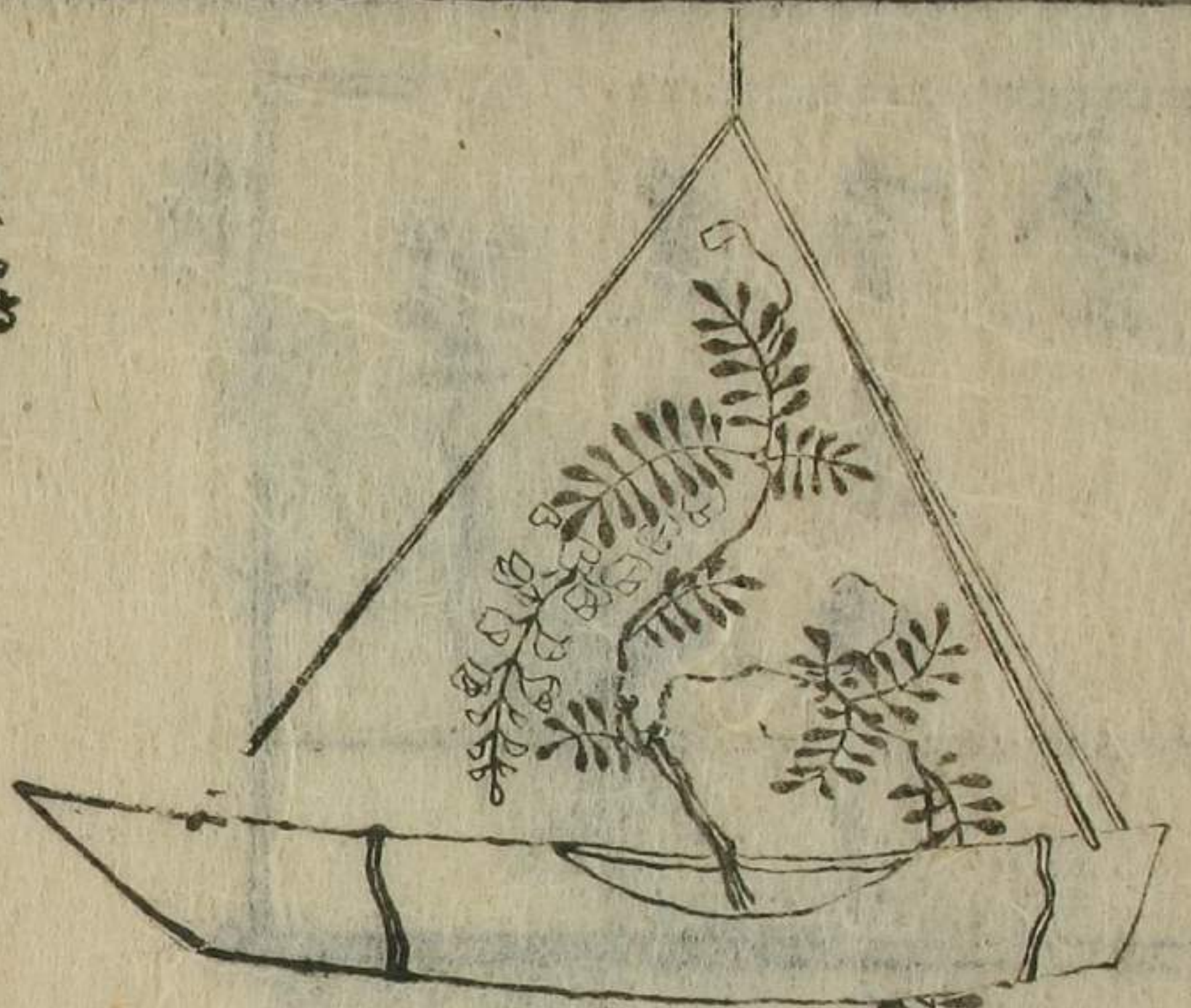
壽 山 尺 古
 翠 子 福 淺 萬
 李 氏 藝



負松系



後口



柏木一露

万葉集
二十二卷



勢州津
貞雲多一難也

